

【技術分類】 2 2 - 4 - 3 自動二輪車サスペンション / エネルギー吸収装置 / ステアリングダンパ

【 F I 】 B62K 21/08

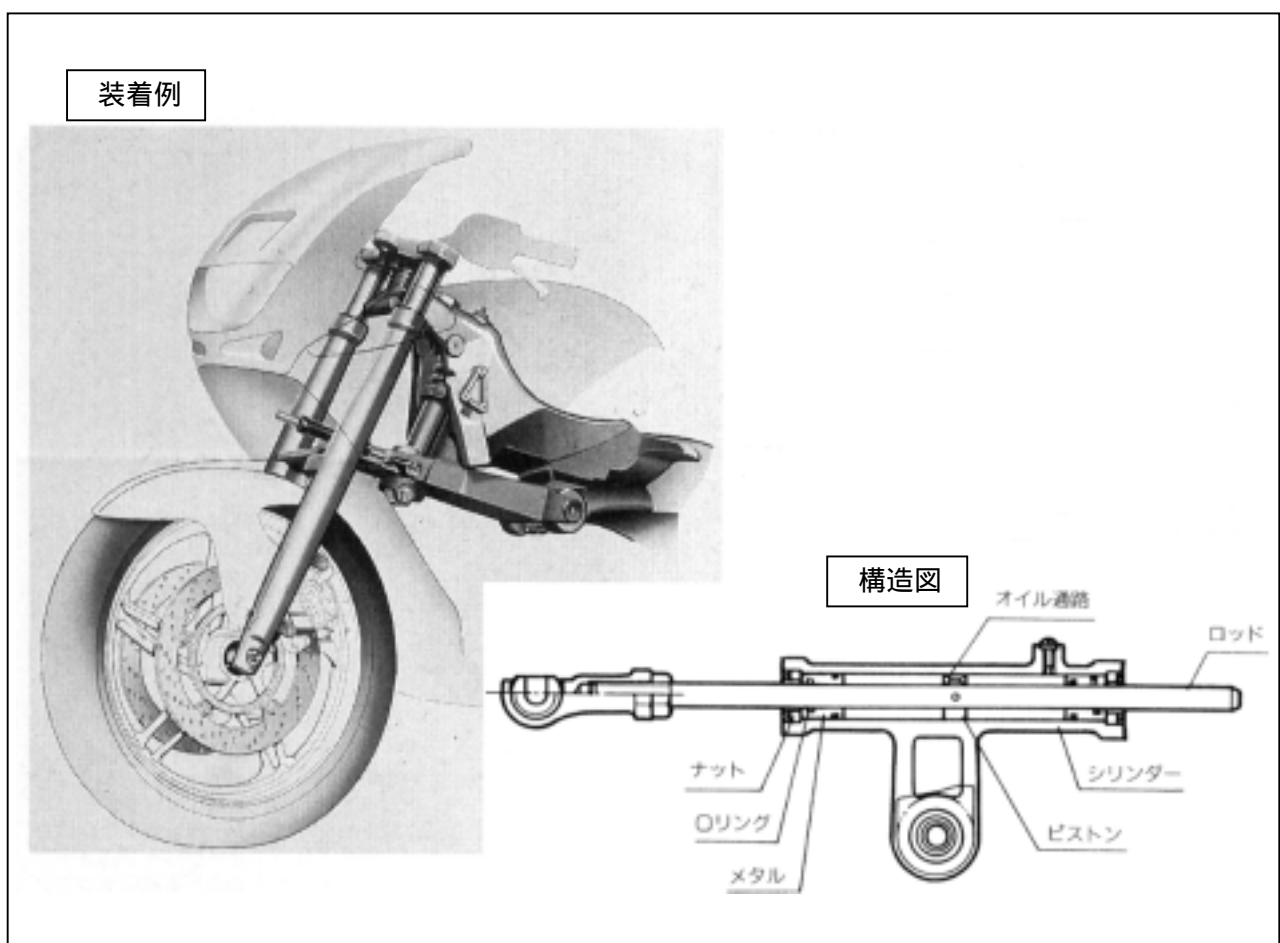
【技術名称】 2 2 - 4 - 3 - 1 シリンダ型ステアリングダンパ

【技術内容】

ステアリングダンパは走行時に操舵系の固有振動数に起因し、路面から入力される外乱力により引き起こされる共振現象を抑えるため、操舵系部材と車体本体間に設けるダンパを指す。古くは乾式摩擦を使ったタイプと現在の主流となっているオイルの粘性を使うオイルダンパが有る。

本実施例はシリンダ内にオイルを封入し、ピストンにより攪拌することで減衰抵抗を得る方式である。ロッドが両端に貫通するので、ショックアブソーバの片ロッド形式ダンパのようにロッドの体積増減を考慮する必要がない。

【図】 シリンダ型ステアリングダンパ



出典：「バイクのメカ入門」、1999年5月12日、つじ・つかさ著、株式会社グランプリ出版発行、
164頁 ステアリングダンパー

【出典 / 参考資料】

「バイクのメカ入門」、1999年5月12日、つじ・つかさ著、株式会社グランプリ出版発行

【技術分類】 2 2 - 4 - 3 自動二輪車サスペンション / エネルギー吸収装置 / ステアリングダンパ

【 F I 】 B62K 21/08

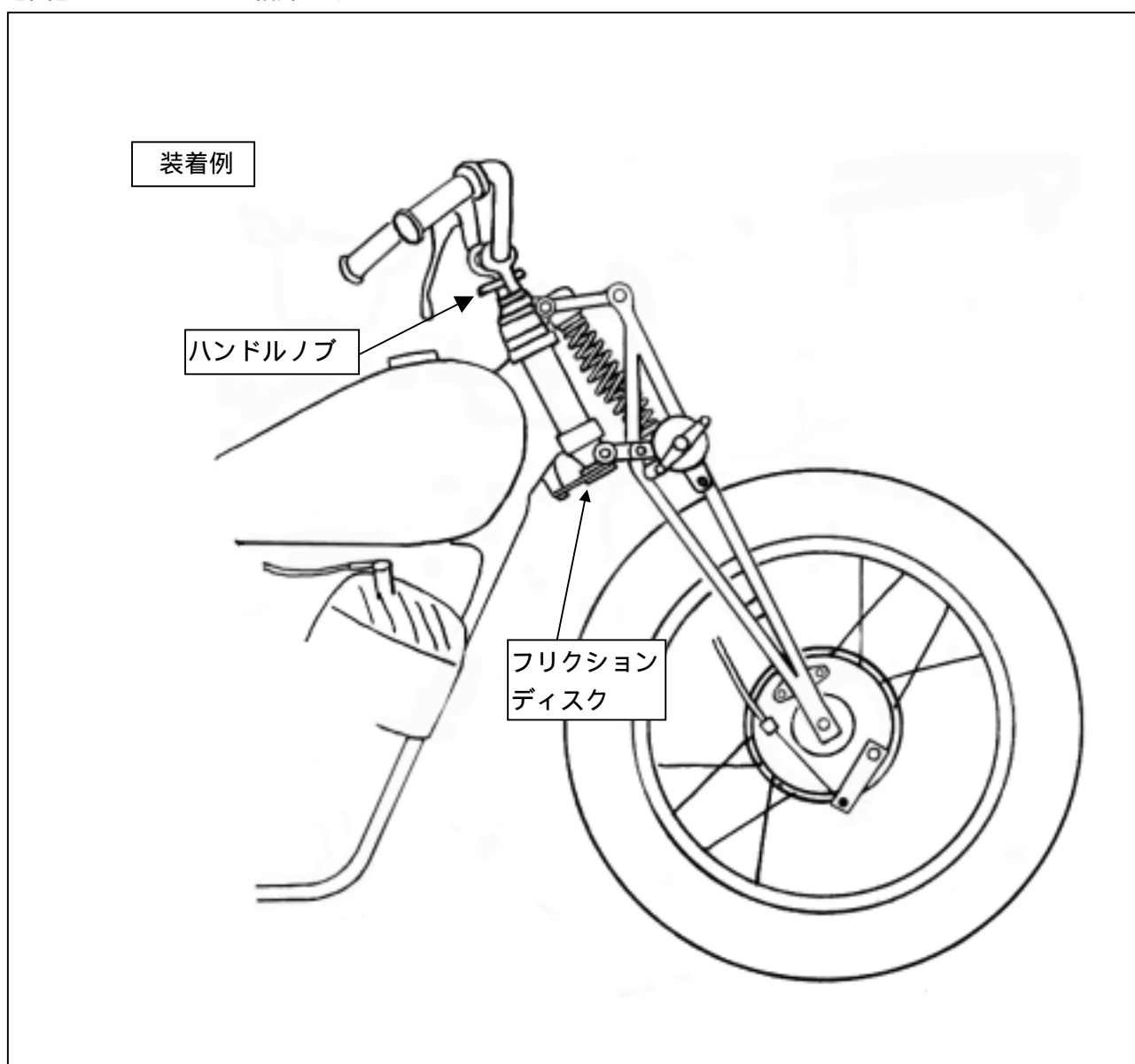
【技術名称】 2 2 - 4 - 3 - 2 ステアリング軸締上げ型ダンパ

【技術内容】

ステアリングダンパは走行時に操舵系の固有振動数に起因し、路面から入力される外乱力により引き起こされる共振現象を抑えるため、操舵系部材と車体本体間に設けるダンパを指す。古くは乾式摩擦を使ったタイプと現在の主流となっているオイルの粘性を使うオイルダンパが有る。

本実施例は操作軸がステアリング軸を貫通し、ステアリングヘッド下部に設けたディスク型フリクションダンパと連結し、ハンドルクラウン中央部に配置しこの軸につながるハンドルノブを操作し、締上げる事でフリクションを発生・調整をおこなう方式の回転型フリクションダンパである。

【図】 ステアリング軸締上げ型ダンパ



図は、参考資料を基に本標準技術集のために作成

【参考資料】

「The Complete Illustrated Encyclopedia of American Motorcycles」, 2000 年 8 月 1 日、Todd Rafferty

著、米国 Chrysalis Books 社発行

【技術分類】 2 2 - 4 - 3 自動二輪車サスペンション / エネルギー吸収装置 / ステアリングダンパ

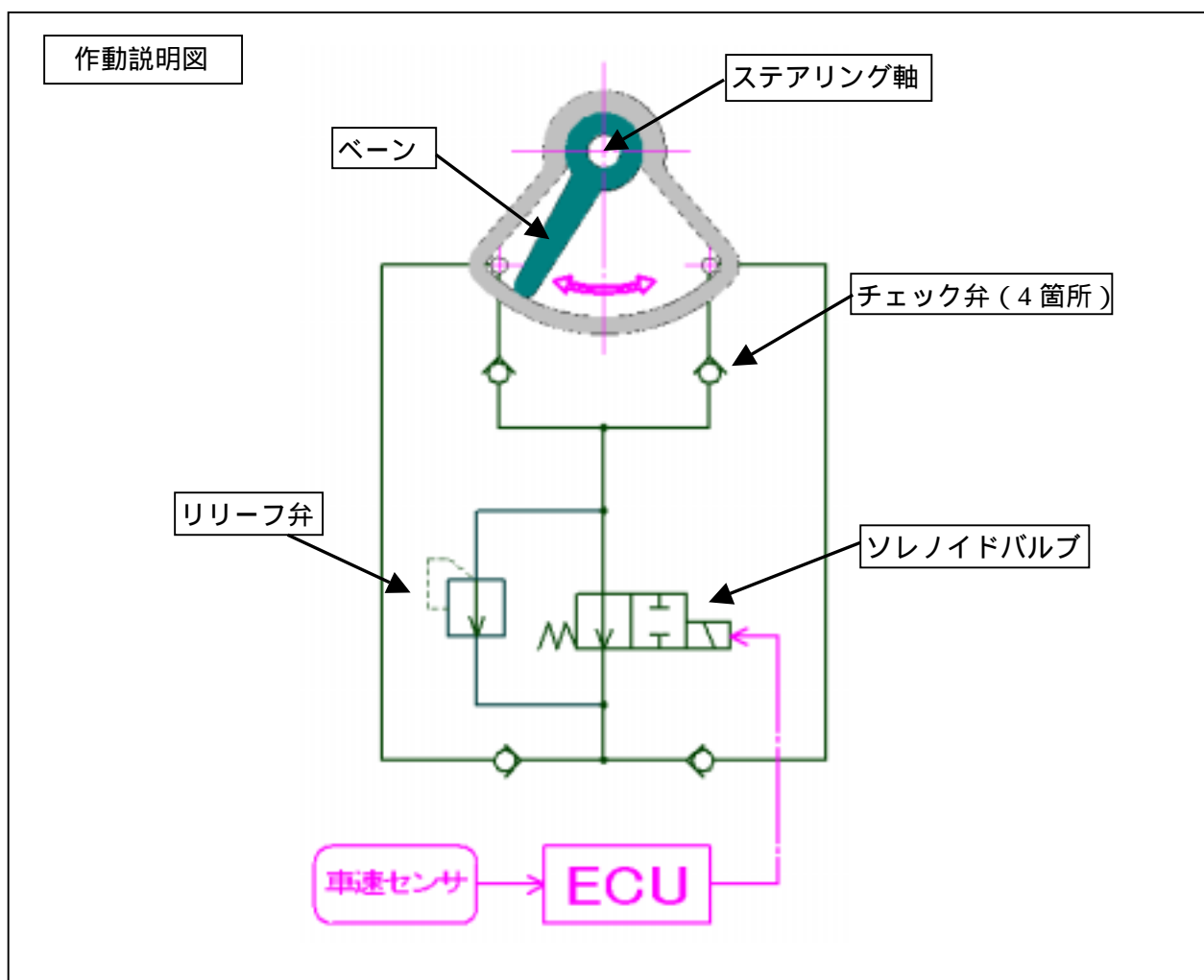
【 F I 】 B62K 21/08、F16F 9/12-9/14、F16F 9/50

【技術名称】 2 2 - 4 - 3 - 3 揺動型電子式速度検知ステアリングダンパ

【技術内容】

揺動型のステアリングダンパの本体側を車体フレームに、可動ペーンをステアリング側に取り付け、ダンパの効き具合を車速センサーにより検知したデータをもとに車速と加速度に応じてコンピュータ制御するステアリングダンパである。作動時の温度上昇による作動油の体積変化を調整するアクキュムレータ(下図では省略)を備える。車速と加速度が増すとダンパがより効くようにコンピュータによって設定してある。

【図】 揺動型電子式速度検知ステアリングダンパ



図は、参考資料を基に本標準技術集のために作成

【参考資料】

本田技研工業株式会社インターネット Home-page、<http://www.honda.co.jp/>

<http://www.honda.co.jp/factbook/motor/cbr1000rr/200404/021.html>、検索日 2005 年 2 月 24 日